

ジェンダー格差の解消へ

- ▶ 世界各国の男女格差を数値で表す「ジェンダーギャップ指数」では、日本は146カ国中118位。以前として低迷している。
また、英経済誌「エコノミスト」が発表した、女性の働きやすさランキングでは、日本はOECD（経済協力開発機構）に加盟する主要29カ国中27位である。
- ▶ 日本は努力していないわけではない。ただ、他の国が「ジェンダー平等」の課題に対して、ものすごいスピード感をもって取り組んでいる。
- ▶ 日本が抱える最大に課題の一つは、やはり「家父長制度」の文化がまだまだ社会に深く根付いていることである。
- ▶ 良い制度や法律ができて、すぐに社会全体が変わるとは限らない。ジェンダーギャップは、女性だけの問題ではなく、社会全体の問題で、男性も、いかにこの課題に主体的に向き合うかが非常に重要なのである。
- ▶ 育児休業を例にとると、最近では、一つの型にはまらず、家庭に合った解決策を夫婦で考えられる時代になった。
女性の社会進出を考えるのであれば、男性が家庭でも活躍し、子どもと過ごせる時間を増やせるようにする。そうでなければ、女性の社会進出に取り組んでも、ますます女性の負担が増えるだけである。
- ▶ 平等とは、「同じ選択肢がある」こと。そして「選ぶ自由がある」ということではないか。全ての人に公平な公平な選択の機会を与えることが、平等の本質である
- ▶ 世界ではまだまだ、割り当てられた性別によって、歩める人生が全く異なるという実情がある。一人一人が自分事として「社会を平等にしたい」と心から思わない限り、本当の意味での平等は実現しない。
- ▶ 「機会の平等」、「結果の平等」どちらが正解かは、その時に社会情勢によって変わってくる。どちらか一方だけが正解ではない。その都度、最適なバランスを探っていくのが「唯一の正解」なのかもしれない。